



会長 佐藤 友彦 幹事 櫻井 武志

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

佐藤 友彦

皆さん、こんにちは。本日は師走のお忙しい中、例会に出席頂きましてありがとうございます。また季節柄、出席者が若干少なく寂しい所ではございますが本日もよろしくお願ひ致します。

先程、この会場に向かっている際に五所神社の前を通りましたら『歳の市』の準備がなされていました。西山会員におかれましては、開催誠におめでとうございます。『歳の市』は毎年、12月15日に開催されています。コロナの影響で開催出来なかった年もあったかと思いますが、私は開催される時は必ず出向いています。毎年、『だるま』や『熊手』等を購入するわけですが、本来は年々、縁起物を大きくするのが良いとされていますが、私は置くスペースの関係上、ここ数年は同じサイズで留まっています。また、『歳の市』を迎えるともう今年も終わるのだなど強く実感すると同時に幼少期に家族で行った事や特に祖母が連れて行ってくれた事を思い出します。いずれにしても幼少期から現在まで私にとって『思い出』の詰まった『大切な行事』であります。そして、『歳の市』について少々お話しさせていただきます。『歳の市』は江戸時代の万治年間頃に江戸の浅草で開催されたのをきっかけに全国に広がり盛んになったとされています。神社仏閣で毎月行われていた縁日にあわせて参拝客が集まる寺社の境内や門前などに『市』が出来たことが始まりです。はじめは大都市だけでみられる『市』でしたが次第に地方都市にも広がり各地に『歳の市』が立つようになります。しかしながら、時代が明治に移り変わり各地に『商店』が登場すると次第に『市』は減少していきました。そのような中でも浅草ではお正月用品に変わって注目を集めたのが『羽子板』で現在も浅草観音で行なわれる『歳の市』は『羽子板市』として賑わいを見せています。このように長い歴史を有すると同時に多くの人々の『想い』や『思い出』が存在する『歳の市』は我

が国やそれぞれの地域における『歴史的』、『文化的』な行事であって後世に残し続けていかななくてはならないものだと強く感じています。是非とも五所神社の『歳の市』が末永く継続されることを切にお祈りし本日のご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

幹事報告 なし

連絡事項

新年の理事会・例会及び新年懇親会は下記の通りです。

日時 2024年1月12日(金) 場所 おんやど恵

定例理事会 17:30~17:45

例会 17:45~17:55

親睦活動(新年懇親会) 18:00~

会費 15,000円(当日徴収いたします)

スマイルボックス

結婚記念日 渡辺久恭君(12/20)

西山敦君

本日、五所神社境内で歳の市が開かれています。雨の中露天商が出店しています。どうぞ皆様おでかけ下さい。

出席報告

ゲスト 0名 ビジター 0名

会員 22名 欠席7名(免除者0名)

出席率 68.18%

前回の修正出席率 95.45%

前々回の修正出席率 77.27%

事前メイクアップ 0名

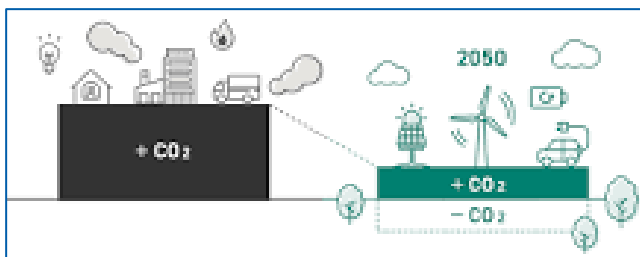
皆様こんにちは。本日は巷で話題となっています「カーボンニュートラル」について、合わせて弊社(エス・シーリビング)で取り組んでいるSDGsと合わせてお話いたします。

1. GXとカーボンニュートラル

最近、ロータリーでの重点分野に「環境」が加えられたように、地球規模で環境対策への関心が高まっています。特によく聞かれる言葉として「GX(Green Transformation:グリーントランスフォーメーション)」があります。

GXとは、カーボンニュートラルや温室効果ガス削減のために取り組む活動や変革のことを指します。日本では2030年度に温室効果ガスを46%(2013年比)で削減し、2050年までにカーボンニュートラルを実現することをNDC(国が決定する貢献)にて表明しています。

続いてカーボンニュートラルですが、こちらは温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを意味します。さきほどの日本の表明は、「2050年までに温室効果ガスの排出量を(吸収量と相殺して)事実上ゼロにする」ということです。



カーボンニュートラルを分かりやすく示した図

カーボンニュートラルの実現には、工場や発電施設の見直しなど大規模な設備や会社による貢献がカギを握ることは間違いありませんが、個人でもできることはたくさんあります。以下に一例を掲載します。

- ・電気使用量の節約
- ・食品ロスをなくす
- ・移動は車を控え、公共交通機関や自転車を使う
- ・ごみの排出量を減らす
- ・マイ箸、マイバッグ活動を推進する
- ・緑を育てる、緑を増やす
- ・FSC認証マークがついた製品を選ぶ
- ・資源をリサイクルする

ひとつひとつは小さな行動ですが、それらが積み上がることで大きな効果が期待できるとされています。皆さんも、できることから取り組んでみてはいかがでしょうか。

2. エス・シーリビングにおけるSDGsの取り組み

SDGsとは「Sustainable Development Goals」の略称で、「持続可能な開発目標」という意味です。その内容は2016年～2030年までの15年間に達成すべき17の目標・169の具体的なターゲットで構成されており、2015年9月、ニューヨークの国連本部にて採択されました。



昨今、多くの企業がSDGsへの関心を深め、取り組みを積極的に発信しています。また消費者のマインドも「安い」「買えるなら大量に」から「買うなら環境に配慮されたものを」「買うなら必要な分だけ」と変化してきており、自社だけが、自分だけが、では選ばれない時代になってきています。

そこで弊社でもSDGsに賛同し、企業理念に掲げる「地域との共生・共同・共栄」「不動産・建設業を通して一生住める街づくりへの貢献」のもと、地域の社会や環境、健康の持続的な繁栄に向けた取り組みを進めています。

主な取り組みを以下に紹介します。

- ・幸せに繋がる住まいのために住まいや資産について学ぶ
(4:質の高い教育をみんなに)
- ・研修カリキュラムなどによる社員の学び、育成
(8:働きがいも経済成長も)
- ・人と環境に配慮した街づくり
- ・長く住み続けられる住まい、長く住める街づくり
(11:住み続けられるまちづくりを)

弊社が最も大切にしてきたことは、この地域に住む方々の繋がりです。エス・シーリビングはこれからも「すべての人の幸せに繋がる住まいの提供」、「すべての人が安全で安心して住みつけ、暮らせる街づくり」の実現を目指して参ります。

ご清聴ありがとうございました。